

## ユースの統合が生物多様性保全にとって必要不可欠

名古屋 CBD-COP10 2010 年 10 月 28 日

**世界中の世界自然遺産サイトから集い、国際的ユースフォーラム Go4BioDiv として統合されたユース達が、富士山近辺のキャンプ場において自然に親しみながら行われた 10 日間に渡る交流と準備、そして名古屋 CBD-COP10 での 3 日間の政治的啓蒙活動ののち以下のような合意に達した。生物多様性保全において、これからの世代の統合は、現場と国際的交渉の場の両方において将来強化されなければいけない。**

Go4BioDivは23カ国34名のユース達と共に開催された。富士山麓での期間を通し、ユース達はそれぞれのサイトに関する自身の経験、課題、脅威について総合的に意見交換した。そしてまた、名古屋で発表された、それぞれのサイトから持ち寄った宝物で埋められたトレジャーボックスのデザイン、プロの振付師と共に仕上げたダンスパフォーマンスといった創造活動も行われた。専門家は特定のトピックを参加者に準備し、概念に関する議論を行った。UNESCO世界遺産センターコミュニケーション・教育・パートナーシップ部門チーフ Vesna Vujicic-Lugassy 氏は世界遺産の概要を、IUCN(国際自然保護連合)次長 Bill Jackson 氏は世界遺産に関するIUCNの役割についてユース達に紹介した。UNEP-WCMC(世界自然保全モニタリングセンター) Bastian Bomhard 氏は気候変動とその世界遺産への影響についてスピーチし、また、GTZ(ドイツ技術協力公社)の Thora Amend 氏は生物多様性と生物多様性条約についてのインプットを行った。これらの知識をもとに、Go4BioDiv 参加者は COP10 でのサイドイベント、そして報道やネットワーク構成のための準備を行った。

それらのひとつが先住民問題に関する CBD 公式サイドイベントであった。先住民の血を引く数人のユース達が、自然保護におけるローカルコミュニティの役割や個人的な関わりについて、また彼らの直面している課題について討議した。ユース達と招待された専門家(Nigel Crawhall (TILCEPA chair) and Grazia Borrini-Feyerabend (CEESP))は、生物多様性保全において非常に重要な部分は、全ての利害関係者間、特に異なる世代間の対話であることに同意をした。

その他 Go4BioDiv のハイライトは、2回のダンスパフォーマンスであり、ひとつはユースの代表者と UNESCO 科学部門事務局長補佐 Gretchen Kalonji 氏、IUCN 長官 Julia Marton-Lefèvre 氏によるパネルディスカッションに伴い行われた。両ゲストスピーカーは、生物多様性保全へのさらに強力なユースの関わりをサポートすることを表し、Go4BioDivユースフォーラムのさらなる協力を求めることを強調した。

# Go 4 BioDiv

International Youth Forum  
Natural World Heritage Sites  
Nagoya / Japan 2010



COP10 でのメッセージ促進のため、参加者は個人ステートメントビデオ、それぞれのストーリーが書かれた展示パネル、パンフレットを制作した。また参加者は、生物多様性損失の食い止めとそれぞれの宝である自然遺産の保存を、公式活動や文書だけでなく COP10 参加者との個人的な交流を通して、政策決定者や一般に向け呼びかけた。

このイニシアティブを維持していくため、Go4BioDiv 参加者は Go4BioDiv ウェブサイトを、それぞれの代表する世界自然遺産サイトの紹介、直面している脅威や個人的な保護活動への関わりといった情報を盛り込むようデザインし直すことを決定した。このウェブサイトは集団内の交流とディスカッションの場と同時に、外部情報掲載の場も提供すべきである。若いメッセンジャー達は継続するための協力に意欲的で、インドで開催される COP11 への準備はすでに始められている。将来的なネットワーク構成はそれに必要不可欠となるだろう。

より詳しい情報は [www.go4biodiv.org](http://www.go4biodiv.org)、もしくは Nina Treu: [n.treu\(at\)unesco.org](mailto:n.treu@unesco.org) まで。